

教師に対する信頼感の規定因に関する追試研究¹⁾

谷口弘一（教育学部人間発達講座）

Abstract

This study was replication research from Nakai & Shoji's study (2006a), and examined factors contributing to junior high school students' trust in teachers. Participants were 140 junior high school students. They answered questionnaires about their trust in teachers (sense of security, distrust, and validity of teacher's behavior), social support from teachers, their parents' trust in teachers, and a sense of basic trust. Social support and parents' trust in teachers were significantly correlated with sense of security, distrust, and validity of teacher's behavior.

Key words: students' trust in teachers, social support from teachers, a sense of basic trust, parents' trust in teachers, junior high school students.

問題と目的

中井・庄司（2006a）は、中学生の教師に対する信頼感の内容を検討し、「安心感」、「不信」、「正当性」の3因子から構成される「生徒の教師に対する信頼感尺度（STT: Students' Trust in Teachers）」を作成した。このSTT尺度を使用して測定された教師に対する信頼感は、自己学習・進路決定・集団活動・健康維持など学校生活全般にわたる生徒の学校生活スキル（中井・庄司, 2007a）、教師関係・学習意欲・進路意識・規則への態度・特別活動への態度といった生徒の様々な学校適応感（中井・庄司, 2008a; 岡・葛西, 2010）、教師との心理的距離（中井・庄司, 2008b）、生徒の抑うつ傾向（岡・葛西, 2010）、生徒の不登校傾向（中井・庄司, 2006b）、大学生の教職志望動機（大石, 2013）などの変数と関連をもつことが明らかにされている。

一方、教師に対する信頼感の規定因としては、親近性・正当性・罰・参照性といった教師の勢力資源（中井・庄司, 2009）、P行動とM行動に代表されるリーダーシップ行動（中井・庄司, 2009）、生徒が抱く教師一般に対するイメージである教師スキーマ（中井・庄司, 2008c）、生徒の幼少期における両親への愛着（中井・庄司, 2007b）、乳児期の経験をもとに形成される基本的信頼感（中井・庄司,

¹⁾ 本論文は、著者の指導のもとで松本由圭氏が実施した卒業研究のデータを再分析し、執筆したものである。

2006a) , 生徒の自己肯定感 (本田・荒嶽・藤林・一期崎, 2012) , 教師からのソーシャル・サポート (中井・庄司, 2006a; 岡・葛西, 2010) , 現実の人間関係に基づく対人的信頼感 (中井・庄司, 2006a) , 友人との親密さ (中井・庄司, 2006a) , 生徒の認知する保護者の教師に対する信頼感 (中井・庄司, 2006a) などが確認されている。

本研究では, 教師に対する信頼感の規定因に関する研究 (中井・庄司, 2006a) において, 相対的に強い規定力をもっていた 3 つの変数 (基本的信頼感, ソーシャル・サポート, 保護者の信頼感) を取りあげ, 追試研究を行うことを目的とした。

方法

調査参加者と調査時期

公立中学校 1 年生 140 名 (男子 71 名, 女子 68 名, 不明 1 名) が調査に参加した。調査実施時期は 12 月下旬であった。

調査内容

調査用紙には, フェイスシートに記載された回答者の個人的属性を質問する項目の他に, 以下に挙げる尺度が含まれていた。

基本的信頼感 谷 (1998) が作成した基本的信頼感尺度 6 項目のうち, 因子負荷量や項目内容の分かりやすさをもとに, 4 項目を選択して実施した。回答は 7 件法であった。分析には 4 項目の合計点を用いた。α 係数は.85 であった。

ソーシャル・サポート 久田・千田・箕口 (1989) の学生用ソーシャル・サポート尺度 16 項目のうち, 項目内容の類似性を考慮し, 9 項目を選択して実施した。回答者は, 教師から期待されるサポートについて, 4 件法で回答した。9 項目の合計点を算出し分析に用いた。α 係数は.93 であった。

保護者の信頼感 中井・庄司 (2006a) が作成した生徒の認知する保護者の教師に対する信頼感尺度 3 項目のうち, 内容的に類似した 2 項目を 1 項目にまとめ, 合計 2 項目からなる尺度に変更した上で実施した。回答は 4 件法であった。2 項目の合計点を分析に用いた。α 係数は.91 であった。

教師に対する信頼感 中井・庄司 (2006a) が作成した STT 尺度の 3 つの下位尺度 (安心感, 不信, 正当性) から, 因子負荷量や項目内容の類似性を考慮し, 各 5 項目ずつを選択して実施した。回答は 4 件法であった。下位尺度ごとに 5 項目の合計点を算出し分析に用いた。α 係数は, 安心感が.91, 不信が.92, 正当性が.85 であった。

結果と考察

本研究で用いた尺度の男女別得点を Table 1 に示す。性差を検討した結果、ソーシャル・サポートのみが有意であり ($t(136)=-2.93, p<.01$)、女子の方が男子よりも高い得点を示した。こうした性差は、中学生を対象とした細田・田畠 (2009) の結果とも一致している。その他の変数には性差が認められなかったため、以下の分析では、全体サンプルを用いて検討を行った。

Table 1 各尺度得点の性差

	男子		女子		性差
	M (SD)		M (SD)		t値
ソーシャル・サポート	24.91 (6.54)		28.03 (5.94)		-2.93**
基本的信頼感	14.37 (6.59)		14.32 (6.24)		.04
保護者の信頼感	5.52 (1.75)		5.90 (1.51)		-1.36
安心感	12.20 (4.63)		13.34 (3.97)		-1.56
正当性	14.65 (3.86)		15.43 (3.24)		-1.28
不信	11.37 (4.89)		9.90 (3.99)		1.93

** $p<.01$

各尺度の相関係数を Table 2 に示す。ソーシャル・サポート、基本的信頼感、保護者の信頼感のいずれもが、教師に対する信頼感の下位尺度である安心感（サポート; $r=.72, p<.01$; 基本的信頼感: $r=.20, p<.05$; 保護者の信頼感: $r=.35, p<.01$ ）、正当性（サポート; $r=.67, p<.01$; 基本的信頼感: $r=.18, p<.05$; 保護者の信頼感: $r=.44, p<.01$ ）、不信（サポート; $r=-.54, p<.01$; 基本的信頼感: $r=-.23, p<.01$; 保護者の信頼感: $r=-.31, p<.01$ ）とそれぞれ有意な相関を示した。

Table 2 各尺度の平均値・標準偏差・ α 係数ならびに尺度間の相関係数

	1	2	3	4	5	6	平均値	SD	α 係数
1 ソーシャル・サポート	—						26.47	6.41	.93
2 基本的信頼感	.24**	—					17.69	6.39	.85
3 保護者の信頼感	.28**	.07	—				5.71	1.64	.91
4 安心感	.72**	.20*	.35**	—			12.73	4.34	.94
5 正当性	.67**	.18*	.44**	.73**	—		15.05	3.57	.85
6 不信	-.54**	-.23**	-.31**	-.56**	-.61**	—	10.65	4.50	.92

* $p<.05$, ** $p<.01$

教師に対する信頼感の各下位尺度を従属変数、ソーシャル・サポート、基本的信頼感、保護者の信頼感を従属変数として重回帰分析を行った (Table 3)。安心感はソーシャル・サポート ($\beta=.67, p<.01$) と保護者の信頼感 ($\beta=.16, p<.01$) から有意な正の影響を受けていた。同様に、正当性もソーシャル・サポート ($\beta=.58, p<.01$) と保護者の信頼感 ($\beta=.26, p<.01$) から有意な正の影響を受けていた。不信はソーシャル・サポート ($\beta=-.47, p<.01$) と保護者の信頼感 ($\beta=-.17, p<.05$)

から有意な負の影響を受けていた。安心感，正当性，不信に対するソーシャル・サポートと保護者の信頼感の影響は，中井・庄司（2006a）においても同様に確認されており，教師からのサポート期待や生徒の認知する保護者の教師に対する信頼感を通して，教師の信頼感が形成されることがあらためて確認された。

一方，中井・庄司（2006a）では，不信が基本的信頼感からもっとも強い影響を受けていたが，本研究では，そうした影響は見られなかった。谷口・浦（2005）によると，親子関係以外の親密な対人関係の形成の初期段階では，養育者との愛着関係をもとにして形成された内的ワーキングモデルが，新しく形成される対人関係でのサポートのやり取りに直接的な影響を与えるが，関係がある程度進展した段階では，その関係における新たな経験を通して形成される関係特有の期待や評価が，当該関係のサポート授受を規定するようになる。こうした知見にもとづくくと，教師との関係がある程度持続した段階では，乳児期の経験をもとに形成される基本的信頼感よりも，その教師との関係における経験を通して形成される教師からのサポート期待の方が，教師の信頼感に対してより強い影響力をもつようになると考えられる。今後の研究では，こうした解釈の妥当性も含めて，因果関係を適切に検証するために，縦断的研究を行う必要があるだろう。

Table 3 教師信頼感の規定要因(重回帰分析結果)

	安心感	正当性	不信
1 ソーシャル・サポート	.67**	.58**	-.47**
2 基本的信頼感	.03	.02	-.09
3 保護者の信頼感	.16**	.26**	-.17*
説明率(R^2)	.54**	.51**	.32**

数値は標準偏回帰係数，* $p < .05$ ，** $p < .01$

引用文献

- 久田 満・千田茂博・箕口雅博 (1989). 学生用ソーシャル・サポート尺度作成の試み (1) 日本社会心理学会第 30 回大会発表論文集, 143-144.
- 本田優子・荒嶽木綿美・藤林まど花・一期崎直美 (2012). 中学生の自己肯定感と教師への信頼感および関わり経験との関連 熊本大学教育学部紀要自然科学 61, 75-84.
- 細田 絢・田蔦誠一 (2009). 中学生におけるソーシャルサポートと自他への肯定感に関する研究 教育心理学研究, 57, 309-323.
- 中井大介・庄司一子 (2006a). 中学生の教師に対する信頼感とその規定要因 教育心理学研究, 54, 453-463.
- 中井大介・庄司一子 (2006b). 中学生の教師に対する信頼感と不登校傾向との関連 筑波教育学研究, 4, 103-116.

- 中井大介・庄司一子 (2007a). 中学校の教師に対する信頼感と学校生活スキルとの関連 共生教育学研究, **2**, 1-12.
- 中井大介・庄司一子 (2007b). 中学生の教師に対する信頼感と幼少期の父親および母親への愛着との関連 パーソナリティ研究, **15**, 323-334.
- 中井大介・庄司一子 (2008a). 中学生の教師に対する信頼感と学校適応感との関連 発達心理学研究 **19**, 57-68.
- 中井大介・庄司一子 (2008b). 中学生の教師に対する信頼感と他者との心理的距離との関連 筑波教育学研究, **6**, 21-34.
- 中井大介・庄司一子 (2008c). 中学生の教師に対する信頼感と教師スキーマとの関連 日本教育心理学会第50回総会発表論文集, 459.
- 中井大介・庄司一子 (2009). 中学生の教師に対する信頼感への教師の勢力資源と教師のリーダーシップ行動の影響 学校心理学研究, **9**, 3-15.
- 大石千歳 (2013). 教師との関わり経験と教師への信頼感が教職志望動機に及ぼす影響—キャリア教育・教育相談の観点による心理学的研究— 東京女子体育大学・東京女子体育短期大学紀要, **48**, 17-25.
- 岡 直希・葛西真記子 (2010). 教師によるサポートが生徒の教師への信頼感や学校適応に及ぼす影響 鳴門生徒指導研究, **20**, 42-55.
- 谷 冬彦 (1998). 青年期における基本的信頼感と時間的展望 発達心理学研究, **9**, 35-44.
- 谷口弘一・浦 光博 (2005). 親子関係の内的ワーキングモデルと友人関係に対する認知が高校生の友人関係におけるサポート授受に及ぼす影響—縦断的研究による分析— 実験社会心理学研究, **44**, 157-164.